

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491900062	事業の開始年月日	H21年10月1日
		指定年月日	H27年9月
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター衣笠		
所在地	(238-0032) 神奈川県横須賀市平作5-10-7		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	平成28年12月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1F GH・共用型通所介護 2F GHのみのサービスを提供しています。 1Fでは通いの方3名 GHで生活している方9名 計12名の方々が日中 家庭的な雰囲気の中 機能訓練・趣味・嗜好に合わせ毎日仲良く過ごしています。 2FはGHのみにてゆったりと過ごし時折1Fに降り通ってくる方々と交流の場を設けています。年に2回後家族と一緒に過ごすクリスマス会・ニチイ祭り等 ボランティアさんや地域の方と過ごす時間を設けています。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年10月17日	評価機関 評価決定日	平成28年12月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR横須賀線衣笠駅からバスで5分ほどの場所に位置し、近くには市営団地やしょうぶ園がある。法人は全国規模で施設などを展開している。この事業所は別法人から運営を引き継いだ、開設からは12年を経ている。</p> <p>【法人のバックアップ体制の下での事業所間の連携】 法人の職場支援として、職員体制のサポートを行っている。顧客アンケートの実施、防災備品の確保なども法人からのバックアップがある。今年度は利用者と共に横須賀市内にある同法人のグループホームに出向き、一緒に夏祭りを楽しんだ。</p> <p>【高齢者の尊厳を重視した支援】 理念にあるように「高齢者の尊厳」を重視した支援を行っている。管理者と職員はレクリエーションや行事に力を入れている。タクシーを利用して近郊の行事へ参加をし、多くの人と接する機会を設けるなど、常に「利用者がいかに楽しい生活を送れるか」を考え、実行に移している。1階で行われている共用型の通所介護サービスの利用者との交流も良い刺激となっている。利用者の多くは職員の手伝いなどをし、互いにいたわり合いながら元気に過ごしている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	(株) ニチイ学館 ニチイケアセンター衣笠
ユニット名	ラン・カトレア

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	更衣室に事業所理念を掲げ勤務に入る前に各自唱和・理解している	社是は入社式やミーティングの折に唱和している。事業所の理念は、管理者の就任時に、思いを「高齢者の尊厳の保持」との言葉にした。その後、「一人一人の生き方を大切にして、その幸せを求めていく」という文言を加え、より具体的になものとした。事務所に掲示している。	作成時の思いを忘れることなく職員に周知するためにも、理念について話し合う場を持たれることを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内での行事参加できそうなことは参加し交流している	町内会に加入し、地域の盆踊りや予防教室、菖蒲園祭りなどに利用者と共に参加している。今年度「ニチイ祭り」は音楽祭と銘打ち地域にも呼びかけボランティアの楽器演奏を行ったが、地域の方の参加はなかった。毎月ヨガや歌のボランティアが来訪している。散歩等で地域の方と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談・見学会等、常に開催している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行い事業所の運営状況や活動内容を報告し地域の方に助言等もらいサービス向上に活かしている	年6回、利用者家族、民生委員、町内会長、横須賀市の職員などの参加を得て行われている。6月は消防署の指導の下、民生委員も参加して避難訓練を行った。事業や行事に関する質問が多く、運営に関する意見をもらうまでには至っていない。4月に市の職員から小学校の福祉に対する取り組みの話聞いた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本年度は第1回目に行政の方が2名参加、意見交換した	年に1回、運営推進会議に出席がある。管理者は事業運営上、困った時や迷った時には市の指導監査課に直接尋ねるようにしている。共用型デイサービスを開始する際にも、十分な話し合いを行った。横須賀市グループホーム協議会には参加をしていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて職員に説明・理解し取り組んでいる	法人のマニュアルを使い管理者が講師となり、毎年研修を行っている。研修に参加した職員は「受講シート」を提出している。玄関やユニットの鍵は日中開錠しており、利用者は好きな時に出入りできる。職員は利用者の動きを確認し、出かけた素振りの利用者に声掛けをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて職員に説明・理解し取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて職員に説明・理解し取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等、時間を設け十分説明しわかりづらい文章等には補足している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社内での顧客満足度調査にて要望等を聞き入れ改善している	法人で毎年行う「顧客満足度調査」や「外部評価アンケート」の結果を参考に改善に努めている。また来所の際や家族交流会で話を直接聞く機会がある。昨年の法人調査の結果で清掃に関する指摘があり、職員は1日2回の清掃を念を入れて行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを開催し意見交換する。それ以外でも勤務中に意見を聞いたり等している	毎月2時間の会議の時間を設け、ミーティングやカンファレンス、研修などを行っている。ほとんどの職員の参加があり、業務で出席できない職員には後日議事録や資料を見てもらっている。申し送り時に直接意見を言う職員もいる。レクリエーションや居室変更の提案があり運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約社員にはキャリアアップ制度にて賃金アップ・正社員には会社で定めた入居率や利益率達成にて年2回の賞与にて還元・全社員に年1回の処遇改善として一時金支給		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足により外部研修には参加させていないが内部研修を行い、各自資格取得の為の研修には勤務表を考慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員不足により本年度は参加できていない		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時にご家族や本人等の言葉に耳を傾けている 入居後も随時行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時等にて相談等を受けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在御本人が必要としているか確認し対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅にいた時に近いよう共有部分を多くとり、出来ない部分等のフォローをしながら関係を築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話等にて相談を受けたり等、関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や来訪・お手紙等にて関係が途切れないようしている	知人の来所時には居室でお茶を出し、歓談してもらう。クリスマスや敬老の日など年に数回「家族会」を開催し、その際は家族と楽しめる懇親会を行っている。毎年タクシーを利用し、地元の「しょうぶ祭り」に行っている。ボランティアと懐かしい歌を唄ったり、昔の曲のDVDを観たりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いのできない部分等をフォロー・カバーしあい支えあっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にいつでも相談に応じますと言葉をかけている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中でその方の気持ちを汲み取り担当者会議に活かしている	入所前に家族に「アセスメントシート」への記入をお願いし、生活歴を把握している。入所後は散歩や入浴などの1対1になった時に思いや意向を聞くことが多い。思いを表出しにくい利用者には、問いかけをして表情を見て意向を汲み取るように努めている。定期的にあセスメントを行い、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用し職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活状態や体調等を記録し常に把握している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な担当者会議を開催し意見を出し合い、計画書に反映している	月に1回のミーティングでカンファレンスを行い情報の収集に努めている。変化のある時は随時、通常は6か月ごとにモニタリングシートを使い評価を行っている。家族の意見や医師の情報をもとに計画を見直している。職員は利用者の介護計画書のコピーを見て、介護記録に実施事項を記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は毎日記入、それを活用し見直しがある時は随時計画書を作成する予定だが本年度は見直し作成はしていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況にて柔軟な支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの協力等を得て安心・安全な毎日が送れるようしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、主治医と連携をとり時には主治医とご家族との仲介に入ったり等している	ほとんどの利用者が入所後に2つの提携医から担当医を選択している。家族対応で従前のかかりつけ医にも通っている利用者もいる。受診時の情報は、毎月の便りで利用者家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて報・連・相し、助言・アドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換をしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・ご家族・管理者等にて話し合いの場を設け、ご家族や御本人の意向を考慮し自然な形で取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における対応の指針」に沿って説明、同意をもらっている。医療契約時に医師と同意書を取り交わす場合もある。終末期には家族と医師を交えて十分話し合いを持ち、方針を共有しながら事業所としてできる支援を行っている。過去に2例のターミナルケアを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて戸惑いがないように身につけている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の中で地域の方を交えて2回訓練している	6月の運営推進会議で昼間を想定し、民生委員の参加と消防署の協力を得て火災の避難訓練を行った。昨年12月には地震を想定し避難訓練を行っている。夜間想定訓練や避難計画の作成などは行っていない。防災備蓄は法人からの支給があり、3日分の食料やカセットコンロなど必要な品をリスト化して管理している。	夜勤者の不安を取り除く意味においても夜間想定訓練は欠かせません。地震や火災など、災害の種類ごとの避難計画を立てられることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、声がけに心がけている	理念にもあるように、利用者の尊厳を重視し、声掛けに配慮している。毎年法人のコンプライアンス試験を職員全員が受けている。トイレから浴室に通じる廊下は、カーテンを引いて人目を避ける工夫をしている。廊下突き当りのカーテンを引くことで入浴中と分かる工夫をしている。個人情報が入った書類は事務室のカギのかかる書庫で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話の中で御本人の希望や要望を聞き取り、自己決定できる声がけを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お茶の時間等、会話の中で聞き取りその方のその日の気分に合わせている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定ができるような声がけをし髪カットも2ヶ月に1回ペースにて行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の好みを聞きできること共有している	各ユニットごとに職員がメニューを決め、調理を行う。食材は近くのスーパーで購入するほか宅配も利用している。利用者は食事の下ごしらえや調理を手伝う。食前には、口腔体操を行う。職員はそれぞれのテーブルにつき、持参のお弁当を共に食べながら、食事の介助を行っている。外食に出る機会が少ないが、行事の際に好みの出前を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みに合わせた形態にて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施、定期的な歯科往診にて口腔内チェックしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し声かけ・誘導している ゆっくり排泄できるようにしている	各フロア3か所トイレがある。そのうちひとつは車いすでもゆったりと使用できる広さで、両サイドにドアがあり浴室に近いので、失敗した時でも、そのまま浴室に誘導しシャワーを使える。日中はトイレでの排泄を支援しており、定時誘導し、極力失敗をなくしている。職員は声掛けにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・食事・内服薬にてコントロールしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間希望はお断りしているが出来るだけ希望に沿うよう努力している	浴室には多くの手すりがあり、足腰が弱っても浴槽に入れる工夫をしている。ゆっくりと入浴するため、職員体制が手厚い午後に入ることが多い。重度の利用者は2人介助を行っている。週に2回の入浴機会を確保しているが、入浴を好まない方が複数名おり、職員は声掛けに苦労している。毎年、季節にはゆず湯やしょうぶ湯を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて明るさや室内の空調の配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員2人で対応しダブルチェックを実施、主治医にリスク等聞き職員間にて共有し記録に収めるようしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の趣味や特技が活かせるような環境作りを心がけている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩は日課の1つとして行い、地域の行事等にはなるべく参加できるように計画を立てている	天気の良い日は車いすの利用者も散歩に出かけている。近隣の中学校の演奏会やしょうぶ祭り、市内にある同法人のグループホームの夏祭りなどへはタクシーを利用して多くの利用者が参加している。近くの町内会館の予防体操教室にも参加している。外出を好まない利用者はベランダでの日光浴を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎日のお買い物の中で支払いの支援している、個々の嗜好品にはおこづかいにて支払いの支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には、はがき等を準備しなるべく希望に沿う様にし、電話もホーム電話を使用している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に生活できるよう季節感をあじわい飾り物の工夫をしている、清潔感を保つ為、掃除はかかさず空調・明るさにも配慮している	リビングの中央に畳の部屋があり、日常は洗濯物をたたむ際に、レクリエーションの時には舞台として使用している。玄関やユニット入口は常に開放されており、自由な雰囲気が漂う。掃除には力を入れており、よく磨かれた廊下は年月を感じさせない。調査当日は各ユニットごとに、行事写真と共に季節を感じさせるハロウィンの飾りが施されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場所の固定はせず御本人の気分にお任せしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人やご家族に好きなように安全面に考慮してくださいと一言そえている	家族と相談し持ち込みの品を決めている。テレビやタンス、椅子、ぬいぐるみ、自作の絵、仏壇、カレンダーなど思い思いの品を飾り、安全に配慮しそれぞれに居心地の良い空間を作っている。おおむねシンプルな部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	4Sを心がけ事故がないよう安全な毎日を過ごせるようにしている		

目 標 達 成 計 画

事業所名 (株)ニチイ学館 ニチイ
イケアセンター衣笠

作成日 28年12月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間想定訓練	夜勤者が戸惑いのないよう日ごろの訓練にて事故のないよう安心・安全な非難がスムーズにできる	夜間 大地震発生非難勧告での応援職員・近隣住民の協力のもと避難場所までの誘導	12/21実施
2	35	災害の種類ごとの非難計画	年計画書の作成	計画通りに必ず実施	3ヶ月以内
3	35	他の事業所との横の繋がりがとぼしい	近隣の老人施設との繋がりがお互い災害時(困った時等)助け合う行き・来ができる関係作り	オーナー様(会社は違うがお互いオーナー様が一緒に)に間に入って頂ききっかけを作って頂き情報共有する	12/28 (予定)
4	1	事業所 理念作成時の思いを職員に改めて周知する場を設ける	事業所 理念を作った時の気持ちを伝え常に職員が共有し生かしていく	ミーティング時に再度 説明	6ヶ月以内
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。